

洋書輸入協会会報

VOL. 9

NO. 12

(通巻 104 号) 昭和 50 年12月

理事会報告

10月28日(火)

(一) 明年京都で開催される International Publishers Association の世界大会(4年に一度開催)の後援団体として参加することを決定。この旨組織委員会を担当している日本書籍出版協会に申出ることとなった。

(二) 洋書祭り(10月24日、25日)について交換委員会(日本出版貿易村山氏)から報告があり、了承。参加したのは会員14社、レプ6社。昨年よりも売上げが大きかった。

(三) フランクフルト書籍展視察団が無事帰国した旨文化厚生委員会(洋販渡辺氏)から報告があり、今回は書籍展主催者により協会視察団のために公式レセプションが催されるなど大きな成果があがったが、さらに各社の協力が必要とされた。

(四) 通関委員会(丸善柴田氏)から雑誌通関問題についての税関当局との話し合いの経過が報告された。

(五) 日本ドキュメンテーション協会の明年の計画(5月18日「外国図書および雑誌の問題点」)に協力することに決定。

(六) 欧明社の奥山朝広氏が逝去され、葬儀に協会を代表して中田正雄氏、木下泰雄氏(丸善)、相良広明氏(紀伊國屋書店)、寺久保事務長が参加した旨報告があった。

(七) Nature 誌の円建の問題についてロンドンで交渉にあたった丸善福田氏から報告があった。

(八) 内外の情勢について討論。

〔附〕出版労連からの申入れについては、協会としては出版労連と交渉する立場にないことを確認。この旨回答することとなった。

11月10日(月)

(一) フローレンス協定について検討した結果とくに修正を希望する点がないことを確認。

(二) 10月分収支計算予算対比表の検討、承認。

(三) IPA大会協力委員会に加入が認められた旨報告があった。

(四) 内外の情勢について討論。

(五) その他。

理事会報告..... 1	会員紹介 (特考古堂書店) 4	ニュース..... 8
1975・フランクフルト国際図書展 ・あとさき(その2)..... 2	Book Review No. 31..... 5	通関統計..... 8
受注から発送まで1時間 リブリ訪問記(一)..... 3	外国出版社の紹介 No. 41 6 (Univ. of Chicago Press.)	総代理店ご案内..... 8

1975・フランクフルト・国際図書展・あとさき

〔その2〕

山 本 高 行

全般的にみて、概して英語圏の出版社への来訪者が比較的多いように思えた。これは出版点数や言語の問題からか？ 一般の人々は午後2時以降でないと主会場に入場出来ないこともあって、午後の方が混雑していたようだ。また地元西ドイツの会場は別棟になっており、こちらは朝から夕刻閉会するまで芋を洗う程の混み具合で、一回わりするのに4時間もかかる有様で、相当に疲れもした。有名出版社フィッシャー、レクラムなどのスタンドではゆっくり本を手にしてもらえない程だった。誰であるかは確かめる術もなかったが、学生達にサイン攻めに会っている有名人らしき人物にも出会った。そう言えばイギリスのペンギンブックスのスタンドには有名な拳闘家アリの姿も見え、黒山の人だった。

あるイギリスの著名な出版社の海外担当マネージャー氏は分刻みのスケジュール表を片手に来訪者の接待に当らねばならず、ランチの時間もないよと悲鳴をあげていた。聞くところによれば商談成立の本番は昼の会場よりむしろ夜だそうで、ディナーを取りながらビジネスをするのだそうだ。今にして思えば、ホテルの夕食時の向うのテーブルの四人組の話は、商談に違いなかった。彼等にとっては厳しい仕事なのかも知れない。しばしホークやナイフの動きが鈍る時もあった。

(3)

フランクフルトへやって来る前にパリ、ロンドンなどの都市の書店を少々見歩いてみた。大抵、ディスカウントセールの部門がある。パリの学生街カルチエ・ラタンにはそうした本屋が多い。結構人気があるとのこと。それにしてもヨーロッパの出版社は一般的に石油ショック後不況の波にかなり洗われているようだ。パリのサンジェルマン大通りの大老婦人と渾名されている有名なアシェットも経営難に陥り、経営陣が交替し、フランス航空宇宙局よりスカウトされた40代の若い人材が迎え入れられ、現在大鉈を振り目下立直しに大奮闘の話。このアシェットの2階の奥にあるインホメーションセンターに行くと数人の相談員が来訪

者に親切にいろいろと相談にのってやっていた。

ロンドン市内の中心街の書店も人の入りがなんとかなし少ないようだ。聞くところによれば、大手のイギリスの出版社も不況に対処して、新規採用を手控えたり、企画の中止を積極的に行ったり、また数ヶ月毎に出庫価格を手直したりしているが、郵便料金の改訂問題や合理化への労組の抵抗等、出版界の前途も多難を思わせる厳しい条件を強いられているようだ。

それにしても少し注意してみると書店には所謂学参の棚が見当らぬことに気が付く。また普通雑誌売場もない。いづれにしてもディスカウントセールの部門があることは前述の通りだが、我が国でも、ある一定の価格以上のものは条件が整うならばディスカウントを行うべきではあるまいか？ 現行の我が国独禁法の規定が、小売店の保護に重点を置くあまり最終消費者である読者への不便——欲しい本が欲しい時に入手出来ない——を無視している点からすれば、独禁法の基本精神そのものに反するわけで、輸入図書あたりからマークアップ問題等を含め、本格的に検討してよい時期ではあるまいか？

さらに輸入図書の読者へのサービスについても各社バラバラだが、次のようなことを考え検討してみてもえぬものかどうか？ 最小の規模でよいからサービスセンターを設け運営し、ジャンル別等のカタログの整備（各社同一の判型にするのも、とりあえずの一案かと思う）を行い、老練な相談員を配置し、必要最少限の見本の展示等を行うこと。潜在的読者の開拓こそ必要だと痛感しながらHALLE 5の中を行ったり来たり。

(4)

日本では正常ルートからはまず入手不可能な洋書がある。どうしても欲しいと思いながら探し求めて会場内を案内を頼りにある国のある出版社のスタンドに行ってみた。スタンドにいた者と話をしてみたが要領を得なかった。しかし日本で大体知らされ、各方面から入手した情報が正しいことが結果的に確かめられた思いだった。要するに日

本語訳が出版されるのだから、オリジナル版は日本に入れないという契約になっているというお話。その訳本を出版する版元がかなり有名な、進歩的と自他共に許しているところ、こんな人を馬鹿にした文化鎖国政策が一体承認されるものか？ しかもお値段がオリジナル版と日本語版とで桁違いの高さ、勿論日本語版の方が断然高いのである。出版の国際化が叫ばれている昨今、こんな逆行は絶対に認められない。

夕刻6時30分迄に来訪者は立ち去らねばならぬことになっているが、もう電灯のスイッチを切っているところもある。しかしその時刻になっても熱心に商談しているスタン

ドも見受けられた。徒歩で帰途を急ぐ者、電動車に乗って出口に向う者、あるいはヨーロッパ大陸各国より車でやって来た人々の車の洪水…これから夜の本番が始まるのか！

ところで来年の第28回国際図書展はやはりフランクフルトで9月16日より21日までの5日間と発表されている。例年より約1月早い開催だ。

それ迄に出版関係の国際行事として来年3月下旬にバーゼルで第14回ヨーロッパ教育器材展が開かれる。新しい経済情勢の中で関係各社が如何なる姿勢で臨んで来るか注目される所。
(教育問題研究家)

受注から発送まで1時間

リブリ訪問記 (一)

上杉勝良 (UPS)

西ドイツの代表的書籍取次であるリブリ (Georg Ling-enbrink 本社ハンブルグ) が、フランクフルトに、最新のコンピューターとオートメーションを連動した超近代的ウェアハウスを設置したと聞いていたので、同業の一人として是非一度見学したいものと思っていたが、計らずも去る10月初旬に訪問する機会を得た。多忙なスケジュールの合間を見て訪問しようと思っていたので、アポイントメントを取っていなかったのだが、極東書店の一条社長から御紹介と御連絡をいただいていたので、快く隅から隅まで親切に見せてもらった。語学力の不足もあって十分な質疑応答は出来なかったが、その概要と印象を書いて見たいと思う。

同社 (以下リブリ・フランクフルト支社を指す) は総工費1,700万マルクと約3カ年かかって1973年11月に完成した、総面積25,000平方メートル、うち倉庫は13,000平方メートルである。同社がカバーする地域は西ドイツのフランクフルト以南で、北半分はハンブルグがカバーしている。

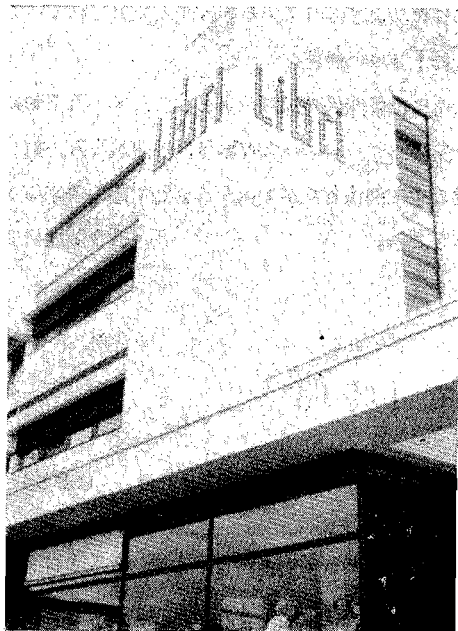
販売先は約1,500軒で、仕入先 (出版社) もほぼ同数あるとのことであった。扱量は月間約150万冊、年商約8,000万マルクと云う。常備在庫は約8万タイトルで、1タイトル当たり平均50冊在庫している。受注は注文書、電話、テ

レックス等で行われるが、何よりも驚いたことは、受注の瞬間から商品がパッケージされるまで1時間と云う早さである。手前味噌になるが、我が社でも急ぎの御注文でお客様が取りに見えられれば、全手動式で15分位で商品をお渡しすることも出来るが、すべての業務が1時間で自動的に処理されていると云うのはやはり大変なことである。

在庫はリブリのカatalogナンバーで整理されており、受注は先ずCTRで在庫が検索され直ちにインボイスが作成される。在庫の問合せ等もカatalogナンバー又はISBN或いは書名だけでも瞬時にコンピューターテレビにキャッチされ即答が出来るそうである。唯どの商品がどこに置いてあるのか、又どんな配列がされているかは、コンピューターしか判らないそうで、その点我が社のように特急や、割り込みの融通はきかない。また商品を見ながら選書することも出来ないのは、いささか不便なことも多いのではなからうか。

在庫商品はインボイスと同時に、各タイトル毎に出庫カードが発行され倉庫にまわる通常のシステムでは、インボイスが倉庫をまわりながら商品を抜き出して行く方法がとられているが、ここでは1タイトル毎に出庫カードが発行されてほとんど同時に抜出し作業が行われている。ここ

にスピード処理の秘訣があるように思われた。同社の倉庫は約4,000坪あるが、特に動きの早い商品をおいてあるメイン倉庫は、間口60メートル、奥行25メートルの広さで書棚の高さが吹抜けで10メートルもある。各書棚の間には、



リブリ・フランクフルト事務所

商品拔出し用のゴンドラ（スタッカークレーン）が22台、上下前後にめまぐるしく動いている状況は正に壮観であった。ゴンドラは1人乗りの小型オープンカーの様な型をしており、クレーンで自由に動く。まわって来た出庫カードのナンバーをボタンで押すとその在庫位置にかなりのスピードで移動する（面白そうなので乗って運転して見たかったのだが、操作を確認できず残念に思っている）。

（次号へ続く）



コンピューターTV

会 員 紹 介

（準 会 員）

（株）考 古 堂 書 店

取締役社長 柳 本 雄 司

〒951 新潟市古町4

医学洋書を扱いはじめて約10年になるが、会社そのものは創業70年も数え、新潟市内の書店での老舗として新潟では知名度が極めて高い。新潟大学医学部、歯学部それに日本歯科大学新潟歯学部ほか県内病院、開業医の先生方より「医学書の考古堂」として高い信用と実績を得ている。

医学情報のうち最も需要の高くなっている医学洋書への力の入れ方は洋書販売増進の大きな原動力となっており、社長以下15名の書店ではあるが、社員全員が勉強会を毎週行っている事からも容易に想像出来る。

他に洋書とは関係ないが郷土関係の出版も4年ほど前

からはじめ現在は10点近くを重ねている。おもに新潟地方に特にゆかりの深い「良寛」関係であるが、最近は「良寛書の考古堂」というイメージも定着しはじめ全国各地から相当の注文が来ているとの事で幅広い営業活動で注目されている。これに関連して医師の方々に喜んでいただける美術書及び絵画の原画も別販売会社を持ち、常にお客様に奉仕するというモットーで着実な歩みを続けている。

最後に社長、柳本雄司氏より洋書輸入業務は日がまだ浅いため、本会員の皆様方の御指導、御鞭撻をお願い致したいとの御挨拶をお伝え致します。

The Bookselling Business by Thomas Joy

1974

246 p.

(Pitman Publishing)

£ 3.00

紀伊國屋書店 洋書仕入部 佐 野 秀 夫

「人は時代遅れにならない様、絶えず勉強しなければならない。書店人にとっては特に時代と共に進むことが必要である。自分の商売の障壁になるような、時代遅れな方法は脱却しなければならない」。トーマス・ジョイ氏の本書『書籍販売業務』の序文冒頭において、我々はこう言う言葉にぶつかる。一見平凡だが、元全英書籍販売協会会長、英国書籍業界で最も有名な人、生粋の書店人であるジョイ氏の50年間にわたる体験から滲み出た言葉として、強く訴えるものがある。然し、何よりも、70歳を過ぎた著者の若々しい積極的姿勢が大変印象的で、はからずも、私はここでイギリスに起った極く新しいふたつの歴史的出来事を思い起した。ひとつは、今年の9月29日から郵便料金を決める計量単位としてイギリス史上始めて公的に「メートル法」が採用されたことであり、いまひとつは、4年前、1971年2月15日から施行された10進法通貨単位への移行の出来事である。これ等は何れも、老大国イギリスの脱皮、新しい時代への適応を目指したまさに歴史的改革だと言われているが、その精神は「新時代に適応する柔軟なところ」であり、ジョイ氏は、その経歴が示す通り、この精神を個人のレベルで見事に実践し、大きな成功を収めたという点が極めて象徴的である。つまり、ジョイ氏の成功が、英国の前途そのものを暗示する様にも思われ、このふたつに強いアフィニティーを感じた次第。又、別の見方をすればこうである。世界でも稀にみる高度成長をとげた、昭和30年代から40年代の日本では、「病めるイギリス」に今更何を学ぶものがあるかという論議もあったが、高度成長が終ったいま、改めてもう一度イギリスを見直そうと云う関心が強

まりつつある。それは、日本においても、イギリスが体験してきたと同様な経済的社会的困難が始まり、「現代の宿弊」を日本としても重要な課題としてとり上げ、対処してゆかねばならなくなったことを意味している。そして、こう云う情況のなかで、イギリスの歴史的出来事やジョイ氏の発言が、単に遠い国の出来事として他人事ではなく思われて、印象深かったと言うことである。

さて、しかしながら本書は、元来イギリス書店人のために書かれた「書店業務」入門書であり、出版又は書籍販売に関する理論的研究書といったものではない。あくまで、実用的参考書として、書店業務についての必要な知識を包括的に収録解説したもの。従って本書は又著者も言う通り、本に関係ある全ての(イギリス)人——出版人、図書館員、評論家、作家にとっても大変便利な参考書として利用出来るものになっている。

著者のトーマス・ジョイ氏は、私が同氏から頂戴した自伝 (Mostly Joy-A bookman's story, 1971) によると、1904年オックスフォードの生れで今年71歳になる。オックスフォードの一書店を振り出しに、50年以上この道一筋を歩いてきた根っからの書店人で、かつて全英書籍販売協会会長をつとめたこともあり、現在、ロンドンの繁華街としても有名なピカデリーの老舗、ハッチャーズ書店——これは1801年以来、現在の場所で営業を続けている、歴史と伝統をもった格式高い店——の専務として元気に活躍しておられる。

本書の構成は、「まえがき」「はしがき」に始まり、(1)序文、(2)書籍販売の経済学、(3)正価書籍協定、(4)仕入、(5)取引条件……以下33項目迄あり、各々に解説が行なわ

れ、最後に15頁程の付録がついている。33の項目のなかには、冒頭に引用した序文——これは著者の50年間にわたる体験をもとにした書店経営のエッセンス——を始め我々に関係の深い、興味をそそる事柄が多い。しかし、このことは、英国が世界有数の出版国であり、その国策としても出版物の40%以上を（ジョイ氏は45%と言っている）海外に輸出し、我々日本の輸入業者がそれを輸入しているという、単に売り手・買い手として関係が深いばかりではない。例えば項目の⑪に述べられたブック・トークン（図書引換券）である。現在の日本の図書券制度は、イギリスのこのブック・トークンをモデルにして、布川角左衛門氏の紹介がきっかけになって昭和35年に発足したものだが、英国の制度が日本に植えかえられ、その書籍流通機構のなかで立派に成長していると云う点に関係の深さをみることが出来る。又、英国の出版販売業界に学ぶことは他にもあり、我国との因縁は深いと思う。とりわけ第3項の「正価書籍協定（The Net Book Agreement）」は、日本の再販売価格維持契約に対応するものとして、現在の日本書籍業界にとっても、極めて示唆するところが多いのではないだろうか。元来、イギリスの再販売価格維持制度は世界でも最も歴史が古くか

つその組織は強力であった。1848年には既に書籍販売業者組合（The Booksellers' Association）が組織され、再販売価格の維持をはかったことが記録されている。本書には、「正価書籍協定」成立の詳しい経過は述べられていないが、1890年にマックミラン社からA・マーシャルの「経済原論」が出版された皮肉なめぐり合わせのエピソードなどを折り込んだ波瀾の歴史は、先行的・改良的諸施策を示すものとして、我々にとって極めて教訓的だと言えよう。

尚、この他にも⑩通信販売、⑫図書館納入免許制度、⑬付加価値税、⑭賃金と賃金委員会、⑮職業訓練コース、等々、イギリス出版販売業界の実情と、それを特色づけている項目は盛沢山で、本書は我々にとっては単なる実用書以上の意味をもっている。つまり、我々は本書によって自ずと日英の比較、対照を行ない、それを通して、洋書輸入業者も含めた日本の出版・販売業界全体の体質や本質的問題を考えざるを得ない、或は又、考えるきっかけを提供され、問題意識を喚起されることが多い、と云うことである。

何にしても、これは色々と得るところの多い書物であり、ひろく一読をすすめたい。以上

外国出版社の紹介 No. 42

The University of Chicago Press

このプレスがアメリカにおける名門出版社のひとつであることは御存知のとおりである。85年にこのプレスの創立に熱意をもやしたのは William Rainey Harper 学長で、大学の影響力がキャンパスや教室をこえてひろがることを理想とし、大学出版局を大学の有機的な一部分と考えていた。出版活動をとおして、シカゴ大学の仕事は全世界をカバーすることができるというのが、かれの確信であった。1965年の数字ではあるが、毎年約200万部の本と約50万部の雑誌とを発行しているのであるか

ら、ハーバー学長の熱意と希望とはかなえられたといってもいいであろう。

しかし、このプレスの85年の歴史が順調あるいは安易なものだったとはいえない。1891年の創立時には、大学のアナウンスメントや紀要類の印刷所にしかすぎなかった。出版事業がほんとうにはじまったのは、1892年にボストンの D. C. Heath & Co. が大学に協力して別に会社として組織されてからである。しかしたちまち財政危機におちいり、1894年この会社は解散し、再び大学がプ

レスの所有権をにぎった。この時までには出版されたのは単行本5点と学術誌5点であるが、そのうち3誌はいまでも発行されている (Journal of Political Economy, Journal of Geology, Journal of Near Eastern Studies——当初は Hebraica)。現在イン・プリントになっているもっとも古い本は1899年に出版された John Dewey の “The School and Society” (現在は “The Child and Curriculum” とあわせて一冊) である。

Newman Miller が 1900 年に支配人に任命されて以来プレスは一定の体制のもとに運営されるようになった。プレスの機能は出版・印刷・書店とにきっちりとわけられ、印刷と書店との利益を出版につぎこむという形ができた。当時このプレスの名を高めたのは、シカゴ大学10周年記念出版物で、はじめ3巻の予定が完結した時には28巻になっていた。こういう規模での学術出版はアメリカでもはじめてのことであった。しかしこの出版も経済的には大きな赤字となった。こうして大きくなくなっていったプレスは、シカゴ大学の教員のみを著者としていた政策を改め、1905年からは大学外にも著者をもとめるようになった。

1919年に Newman Miller がなくなったのち組織が改編され、書店がプレスからきりはなされた——この利益が出版につぎこまれることに変りはなかったが。編集・製作については Board of University Publication が責任をとり、財政上の問題については、大学のビジネス・マネージャーが責任を負うという体制がとられた。こうしてプレスの中にはふたつの部門ができた。勿論いろいろむずかしい問題はあったが、こうした努力がみどり、再編後3年間で売上げは急増し、印刷部門の収益と寄付金とをあわせてやっと黒字を計上するようになった。

こういう基盤の上に1920—30年代の活潑な出版がはじめられた。 “The New Testament: An American Translation”, “The Complete Bible: An American Translation”, “A Dictionary of American English

on Historical Principle” (1943年完結)、“Dictionary of the Older Scottish Tongue” (現在Nまで出版) などからの成果であるが、1940年に大学50周年記念出版としてチャールサー生誕 600 年に出版された “The Canterbury Tales” (8 Vols.) は John M. Manly と E. Rickert との 14年間にわたる労作である。

N. Miller は Publisher's Weekly への広告、カタログの発行をはじめ、東 西部に販売代理店、在庫、さらに英・独・日・中欧・中国に代表者をおいたし、Cambridge University Press との協力関係をつくったりした。再編後営業関係を担当した Donald Bean は、1934年に商業出版社と契約をむすび、プレスの出版物のうちから適当なものの販売をまかせることにしたなど営業関係の改革にとりくんだ。 Association of American University Presses がつくられたのも、かれの功績のひとつである。

1951年にはプレスから印刷部門が完全にきりはなされ、書店・印刷部門の利益は大学におさめられ、プレスには毎年大学から補助金が支出されるようになった。ところが1955年にこの補助金がうちきられ、プレスは苦境におちいったが、人員削減、在庫の大処分などによってきりぬけた。売上げの増加に寄与したのは、Rice University, Washington University, Newberry Library, American Bar Association の出版をひきうけたことである。

1956年には Phoenix Books と名づけてペーパーバックの出版をはじめ、大量販売が開始され、1965年には販売部数 100 万をこえた。プレスのしてきたことはカタログをみて判断してほしい、というのは、あるいはいえるのは、このプレスの出版人としての誇りであり、自覚である。55のシリーズを含む2,000点をこす単行本と学術誌33を含むプレスのカタログは、その誇りと自覚とを支えて余りがあるといえるだろう。 (I)

ニュース

- ☆ 米国 McGraw-Hill International Book Co. の Group Marketing Director-Asia, Mr. Robert LeBow が、11月上旬着任された。
 - ☆ 仏国 Éditions Gallimard の Regional Sales Manager, Mr. Mac. A. Campbell が11月中旬来日。
 - ☆ 英国 ピットマン・リミテッドの海外担当取締役デイビッド・ヴァーリー氏が 11月中旬来日。
 - ☆ 仏国 Hachette 社の Mr. Gérard Hamon が 11月下旬来日。
 - ☆ 英国 University Microfilms Ltd. の Managing Director, Mr. James Denning が 11月下旬来日。
 - ☆ 英国 Associated Book Publishers Ltd. の Overseas Marketing Director, Mr. John Spragg と Chapman & Hall Ltd. の Assistant Managing Director であり、かつ Methuen & Co., Ltd. の Marketing Director である Mr. H. J. Von Knorring が 11月下旬来日。
- また英国 Taylor & Francis Ltd. の Group Marketing Director, Mr. Charles W. Wheeler と Senior Scientific Editor の Mr. Michael I. Dawes が 11月下旬来日。
- いずれも 12月2日から6日の間に 英国トレードセンターで開催された 英国オプトエレクトロニクス・レーザー機器展に、書籍・雑誌を展示のために来日されたものである。
- なお、British Council において 12月9日に同氏達のレセプションが行われた。
- ☆ 米国 The Williams & Wilkins Co. の Mrs. Carolyn T. Donohue が 12月上旬来日。

通関統計

外国貿易概況（大蔵省関税局編、日本関税協会発行）
1975年8月号所載。

書籍、新聞、雑誌の輸入額。

昭和50年8月 \$6,639,000 1月以降累計 \$66,463,000

昭和49年8月 \$7,607,000 " \$53,414,000

（註）この統計は、C I F 価格で10万円以下の少額貨物は含まない。

総代理店ご案内

次の通り日本総代理店の案内がございました。

お手許の Agent List にご記入願います

(株) 医学書院 ☎ 814-5931

Butterworth & Co. Ltd., London

Ghadially, F. N.: Ultrastructural Pathology of the Cell; A Text and Atlas of Physiological and Pathological Alterations in Cell Fine Structure (November '75) ¥ 30,800

Ross, P. & G. H. Du Boulay: An Atlas of Normal Vertebral Angiograms (November '75) 13,200

Marcel Dekker, Inc., New York

Modern Pharmacology-Toxicology

Vol. 5 Ehrenpreis, S. & A. Neidle: Methods in Narcotics Research (November '75) 11,000

Grune & Stratton, Inc., New York

Zelis, R.: The Peripheral Circulations; A Clinical Cardiology Monograph (November '75) 11,000

H. E. Stenfert Kroese B. V., Leiden

Sellink, J. L.: Radiological Atlas of Common Diseases of the Small Bowel (November '75) 25,600

Stembera, A. et al.: High-Risk Pregnancy and the Child (December '75) 6,720

Went, L. N.: Early Diagnosis of Genetic Diseases (December '75) 10,400

Georg Thieme Verlag, Stuttgart

Welin, S. & G. Welin: The Double Contrast Examination of the Colon Experiences with the Welin Modification (November '75) 15,300

The Williams & Wilkins Company, Baltimore

Flynn, J. E.: Hand Surgery, 2nd ed. (November '75) 17,940

(株) ブックス・フォ・アジア ☎ 263-6804

代表業務開始

International Textbook Co., Ltd.

Leonard Hill.

Surrey University Press.

昭和50年12月 通巻第104号 洋書輸入協会 編集者 寺久保一重

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル 302号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田町28 第一山中ビル ☎ 371-5329